■ 静岡医療コミュニケーション研究会

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

Aug. 2023 第25号

SMC研 修 会

藤崎和彦先生の講演を拝聴して

私は急性期病院勤務から在宅医療に転職し患者様や患者様のご家族に向き合う機会が増え、医療的な相談から生活面での相談も受けるようになりました。また、職種の違う医療介護に携わる方々との交流も増え情報共有する場面において、受け取り方の違いや伝えることの難しさを痛感していました。そこで、患者様やご家族の立場をふまえた医療におけるコミュニケーションを深く学習したいと思いSMCに入会しました。まだまだ駆け出しではありますが、藤崎和彦先生の講演を拝聴しさらにその思いは深まりました。

令和４年９月４日に開催された研修会では、「最近の医学教育の変化とSP」と題した藤崎先生の講

演とロールプレイを通してのシナリオ検討が行われました。講演で特に印象に残ったことは、コミュニケーションスキルはとっさに患者の発言に相応しいタイミングで相応しい言葉かけができる技能であり、その為には日々の繰り返し練習が重要だということです。また、日常的に共感的なコミュニケーションに心がけることも大切であると学びました。

普段の生活においても円滑なコミュニケーションは必要です。痛みや不安を抱えた患者様の訴えをしっかり傾聴できるスキルは、どんなに世の中が便利になりＡＩが導入されても人間に残された重要なスキルではないかと考え、ＳＭＣを通しさらに学習していきたいと強く思いました。

（望月）

※SP とは・・・
SP（エスピー）は本物の患者と同様の演技ができるように訓練された人のことで、一般模擬患者：Simulated Patient と標準模擬患者：Standardized Patient に分類されます。一般模擬患者は学生や医療者の演習やトレーニングで研修者の相手をします。標準模擬患者は試験や評価（OSCE など）に用いられます。

※OSCE とは・・・
客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination の略です。OSCE（オスキー）は、日本の医学部、歯学部、獣医学部、薬学部６年制課程の学生が臨床実習に進むために合格しなくてはならない試験の一つです。医学部では、臨床実習に出る前に行われる“臨床実習前 OSCE”と臨床実習終了後に総合的臨床能力を評価する“臨床実習後 OSCE”の２種類があります。

静岡市保健所主催 医療コミュニケーション研修会

【静岡県立総合病院】

研修会に参加して

静岡県立総合病院　看護師　早川　知里

今回初めて、医療安全コミュニケーション研修に看護師役として参加させていただきました。状態が悪化し、お亡くなりになった患者様のご家族への対応の場面で、最期の時に立ち会えなかった悲しみや怒りの訴えにどのような言葉をかけたら良いかとても悩みました。まずはご家族の方の思いをうなずきながら遮ることなく聞くようにしたところ、最期の時に間に合わなかった悲しさの他に、生前の約束や積極的な治療をしないと決めたことが良かったのか等の思いを語っていただけました。訴えの背景には家族を失った事に対する寂しさ・悲しさだけでなく、自らの決断が間違いだったのではないかという自責の念や、もっと自分が何かできたのではないかという後悔など、様々な思いを抱えていらっしゃることが分かりました。

うなずきながら視線を合わせてゆっくりとお話しすることで相手に安心を与え、思いを引き出すことができたのではと思います。緊迫した場面ほど解決のための言葉を探してしまいますが、「○○と思っているのですね」と相手の言葉を繰り返すだけでも共感の姿勢を示せるとアドバイスをいただけ、大変勉強になりました。傾聴・共感の姿勢を持つことで、患者・家族の理解を深め、より良い看護に繋げられると感じました。また、ご家族は医療者の言葉ひとつひとつに敏感に反応されるため、分かりやすい言葉を選んでお伝えする大切さを再確認しました。

コロナによる面会制限がある中でご家族と看護師の関わりが減り、信頼関係の構築が難しい状況が続いています。今回の研修で学んだ事柄を活かして丁寧に患者・家族に対応し、信頼し安心していただけるよう日々看護をしていきたいと思います。

患者家族を演じて

令和４年10月14日静岡県立総合病院で、静岡市保健所主催のコミュニケーション研修会を行いました。各部署のセーフティーマネージャーやアシスタントを担う多職種37名が参加しました。ロールプレイは「容態急変で来院したが、母親の死亡時に間に合わなかった娘」という設定で２回行いました。

娘は死に目に会えなかった辛い気持ちと母の意思だったとはいえ「延命はしない」という書類にサインしたことは間違っていたのではないか、と悔やむ気持ちで自分を責めていました。そこに医師と看護師が経過説明の目的で訪れ、家族と話す場面です。

最初の医師は口調が優しく、時折目を合わせ、言葉を選んで話している印象でした。ただ、娘の気持ちより先に話が進んでいるようで、どこか他人事のように感じてしまいました。家族の気持ちは置き去りだったような気がします。「こちらの落ち度でした」の言葉に、病院のせいで最期に立ち会えなかったのかと、更に辛い気持ちになりました。

医師が退室後、看護師の「最期に合わせたい方はいますか？」の言葉に、「私が一番会いたかった…生きているうちに…」と、抑えていた感情が溢れてきました。しかし、悲しみ、辛さ、苦しみが渦巻き、言葉に詰まる娘を看護師は温かく見守り、ゆっくり待ってくれている印象で、「充分なお別れの時間が取れず申し訳ありませんでした」と、家族の気持ちを大切にしてくれていると感じました。

次の医師は、第一声から経過の説明が長く続き、詳しい状況説明で娘を落ち着かせようとしていると感じました。「娘さんは来るのに、１時間かかったので死亡時に間に合わず…」の言葉に、間に合わなかったのは私のせいなのかと辛くなりました。「ミスでした」の言葉に苦しくなり、丁寧な経過説明も娘の耳にはあまり入ってきませんでした。

その後、看護師との場面では、娘の「ちゃんと手を握ってお礼を伝え、送ってあげたかった」の言葉を受け、「心細くないように、なるべく傍にいさせてもらいました」「娘さんの優しい気持ちは伝わっていると思います」「穏やかなお顔でした」など、母の最期の様子を聞かせてくれました。娘の感情の動きに寄り添い、一つ一つ丁寧に共感し話してくれて、少しずつ気持ちが落ち着いてきました。

とても難しい場面だったと思いますが、２組とも真剣に家族と向き合い対応して頂きました。10人いれば10通りの患者や家族の思いがあります。それぞれの思いを受け止め、寄り添うのは大変なことかもしれません。患者や家族は、「同じ方向を向いてくれている」「一緒に歩んでくれている」と思えるだけで、安心し穏やかな気持ちになります。私自身も、今回の研修会で改めて、人の気持ちに共感し寄り添う事の大切さを感じました。（横山）

医学教育セミナーとワークショップ　in関西医科大学に参加して

2022年10月29日にSMCのメンバー４名で、MEDC主催の模擬患者大交流会に参加しました。コロナウイルス感染拡大のためオンライン開催かと危ぶまれましたが、久しぶりの対面での開催でした。

始めに藤崎和彦先生から「SPに求められる役割と最近の医学教育の動向」のテーマで講義があり、「心構え論は独りよがりであり、対話ではない。善意を相手の立場でうまく届ける訓練が必要である。」というメッセージをいただきました。

その後グループワークで日頃の活動や困っている事やコロナ禍のSP活動で工夫している事などを様々な立場で話し合いました。NPO法人として20年以上活動している大阪のグループの方から、「初めは苦労も多かったが、最近は学生の成長を見ることが楽しみになった。傾聴も技や理論が必要。」との経験談を聴くことができました。

標準模擬患者を演じていると"マスクで表情がわからない" "オンラインではタイムラグがあり戸惑った" "システムに慣れることに時間がかかった" "アクリル板越しの会話は聞き取りにくかった"などの声があがりましたが、皆さんがコロナ禍でもそれぞれに工夫し、サバイバルされていて元気をもらえました。

模擬患者のグループはNPOや医学部所属等、立ち位置が異なりますが、会員の確保や学習、共用試験公的化に対する取り組みにも苦慮しているなど様々な意見がありました。

私は初めて他の地域の模擬患者の方、教員や指導者の方と接し、立場が異なる中でのコミュニケーションの難しさや模擬患者の役割について、改めて考える機会になりました。

「コミュニケーションスキルはパフォーマンスできなければ意味がない、日々の練習が不可欠。」という藤崎先生のまとめの講義があり、有意義な時間は終了しました。

（白鳥）

静岡医療コミュニケーション研究会、模擬患者の20年余

私たちの活動の一つに、大学医学部生４年次と６年次の医療面接の実技試験のお手伝いがあります。模擬患者を相手に10分、あるいは12分間の医療面接を行い、その問診をもとにして診断を考えるのです。4年次の面接試験はもう17－8年、６年次の試験も始まってから８年になるでしょうか。その実技試験を始める時期から幾つかの大学において、私たちがお手伝いさせて頂ける幸運を得ました。我が国では過去に例のない試験で、学生さんたちも手探り状態でしたが、私たちもお手本がないまま模索の連続でした。来年度2024年度には面接試験そのものが、医学部の卒業必須要件になるそうですから、私たちの責任はさらに重くなります。現在では、薬学部でも同様の試験が行われています。薬剤の効能や副作用について、薬学生は模擬患者と一対一で、薬剤の説明や医療情報の提供をします。

模擬患者が参加して行われる医療コミュニケーション教育において、その始まりの時期からほとんど並行して私たちの活動が進んできたことに、私たちは多少の誇りを感じて良いかと思います。一方で、国から模擬患者の能力評価・資格認定が行われ、私たちのメンバー16名が認定されました。私たちの活動の水準が認められ、自信と誇りになりました。

静岡市保健所の応援は、この会の発足以来20数年間全く変わることなく、静岡市内の医療機関に従事する医療者での医療面談研修会を準備していただいています。医師会・歯科医師会の先生方の研修会も調整していただきました。また、コロナ感染パンデミックで途絶えてしまいましたが、2019年までは３年間続けて東京にまで進出し、医療安全教育・コミュニケーションを発展させる目的のお手伝いをしておりました。2023年の現状は、静岡県内の活動に留まっていますが、活動の自粛はそろそろ収束の方向でよいのではと考えるところです。

（袴田）

令和４年度　SMCの活動

開　催　日		活　動　内　容
令和４年５月８日	日	令和４年度総会
７月６日	水	標準模擬患者認定についての全国説明会へのリモート参加
７月９日	土	浜松医科大学医学部　臨床実習後OSCE（医学科６年）へのＳＰ派遣
７月28日	木	2022年度標準模擬患者養成担当者認定講習会へのリモート参加
８月６日	土	浜松医科大学医学部　臨床実習後OSCE追試験へのＳＰ派遣
８月31日	水	SMC第24号発行
９月３日	土	静岡県立大学「CRC/CRA養成講座」への講師およびＳＰ派遣
９月４日	日	SMC研修会
９月29日	木	静岡県立大学薬学部 臨床薬学演習にＳＰ派遣（薬学部１年）
10月14日	金	保健所主催の研修会への講師およびＳＰ派遣（静岡県立総合病院）
10月29日	土	第83回医学教育セミナーとワークショップに参加（大阪）
11月12日	土	浜松医科大学医学部　臨床実習前OSCE（医学科４年）へのＳＰ派遣
12月７日	水	静岡県中部看護専門学校OSCE（看護学科３年）へのＳＰ派遣
12月10日	土	静岡県立大学薬学部OSCE（薬学部４年）へのＳＰ派遣
令和５年１月29日	日	認定標準模擬患者パフォーマンス評価（１回目）受験
２月11日	土	静岡県立大学薬学部 医療人材養成事業へのSP派遣
２月23日	木	COML模擬患者活動30周年記念シンポジウムに参加（大阪）
３月３日	金	医学系OSCE模擬患者団体向け全国説明会へのリモート参加
３月６日	月	静岡県立大学薬学部 医療人材養成事業へのSP派遣
月１回	日	定例会（静岡市中央福祉センター）

薬学部の新たな取り組み

静岡県立大学薬学部１年生の臨床薬学演習に模擬患者として参加しました。新型コロナウイルス感染拡大により人との接触を制限されてきた学生たちが、どのように患者と接するのか心配でしたが、アイコンタクトをとって接している学生が多いことに安堵しました。オウム返しの仕方や共感の伝え方を教えると、次のロールプレイではできるようになっていて、学習意欲の高さに驚きました。

また、静岡県立大学は「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の一環として、医療面談やフィジカルアセスメントなどのバーチャル・リアリティ（仮想現実、VR）コンテンツを制作しました。私たちは模擬患者として医療面談の場面に協力しました。動画は、薬剤師と患者双方の目線が合う場所に360度撮影できるカメラを置いて撮影しましたが、初めての経験で、どのように視聴されるのかを確認しながらの試行錯誤でした。授業での活用や薬剤師業務を広く知ってもらうためのツールとなることを期待しています。

時代の流れにより模擬患者に求められることも変化しています。新たなことに挑戦できることを嬉しく思います。（鈴木）

【連絡先】 静岡医療コミュニケーション研究会　　代表　鈴木　崇代
〒420-0961　静岡市葵区北 3-29-27　TEL 070-1687-2466　E-mail: smc1999sp@gmail.com
SMC ホームページ URL　http：//www.smc-jp.com/

発行：静岡医療コミュニケーション研究会　　印刷：㈲ 橋本印刷所